

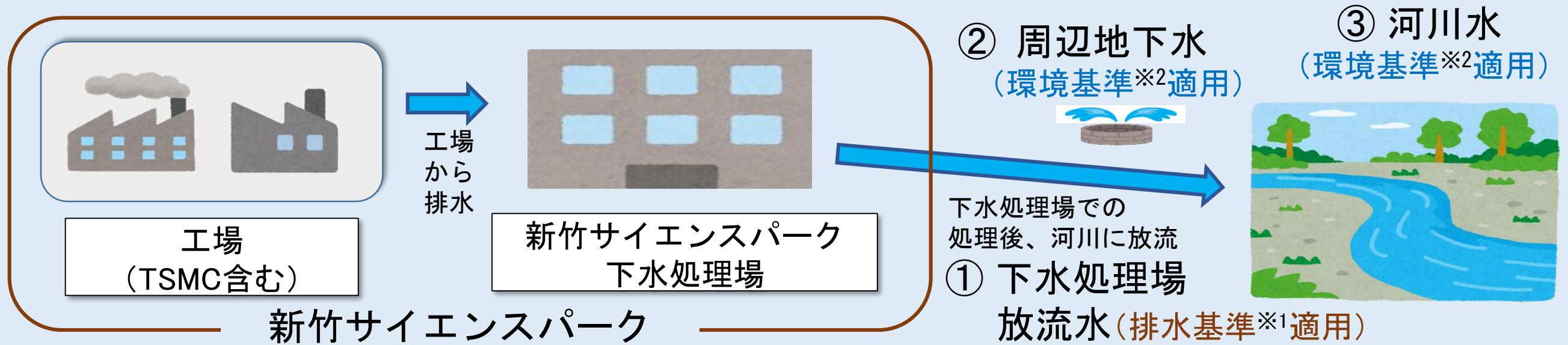
新竹サイエンスパーク周辺の環境状況

- 台湾では、日本と同様、水質、大気等に関する環境法令が整備されており、各サイエンスパークでは、**地元行政機関**（新竹サイエンスパーク管理局）による**モニタリング調査**が実施されている。
- 新竹サイエンスパーク周辺のモニタリング結果について、以下のとおり報告する。
なお、台湾と日本では調査項目が異なるため、台湾で調査された項目について確認を行った。

1 水質の状況

（参考）水質のモニタリング調査 採取場所

- サイエンスパークでは、各工場の排水はパーク内の下水処理場に集められ、下水処理場での処理後、河川に放流される。
- 地元行政機関によるモニタリング調査では、下水処理場の放流場所周辺の
① 下水処理場放流水、**② 地下水**、**③ 河川水**の水質が調査されている。



※1 **排水基準**とは、河川等に排水を排出する事業場（下水処理場を含む）が遵守しなければならない規制基準。基準超過の場合は罰則あり。

※2 **環境基準**とは、人の健康を保護し生活環境を保全するうえで達成されることが望ましい基準としての目標値。

新竹サイエンスパーク周辺の環境状況

① 下水処理場放流水(排水基準適用)の状況

- モニタリング結果は、台湾の排水基準を満たしている。
- ほとんどの調査項目が日本の排水基準内であり、重金属の多くが検出限界未満^{※1}であった。
(例)カドミウム(Cd):0.001mg/L未満(日本の排水基準:0.03mg/L)
- 一部の項目(フッ素(F)^{※2}、化学的酸素要求量(COD)^{※3}及び全燐(T-P)^{※4})は、日本の排水基準を満たしていないが、本県に立地する企業は、日本の基準を遵守することとなる。
 - フッ素(F): 平均値8.2mg/L、最大値9.8mg/L(日本の排水基準:8mg/L)
 - 化学的酸素要求量(COD): 平均値22.1mg/L、最大値24.0mg/L(日本の排水基準:20mg/L)
 - 全燐(T-P): 最大値17.8mg/L(日本の排水基準:16mg/L)

※1 「検出限界未満」は、検出できる濃度未満であることを示し、「不検出(ND)」で表記。

※2 「フッ素(F)」(人の健康の保護に関する項目)は、岩石や土壌中に広く分布しているため、井戸水や湧水、温泉中にもフッ素を含むものがある。また、様々な分野の工業排水にも含まれている。

なお、長期間過量に摂取した場合、フッ素濃度2mg/L以上で斑状歯(はんじょうし)を生じ、8mg/L以上で骨硬化症(こつこうかしょう)が起きるとされている。

※3 「化学的酸素要求量(COD)」(生活環境の保全に関する項目)は、海や河川の汚れの度合を示す数値であり、数値が高いほど水中の汚染物質の量も多いことを示している。

※4 「全燐(りん)(T-P)」(生活環境の保全に関する項目)は、生物体に含まれる有機性の燐と遊離型の無機燐等の総和をいう。

新竹サイエンスパーク周辺の環境状況

下水処理場放流水 調査結果

青色マーキング箇所が日本の環境基準等を満たしていない項目

地点名	項目	人の健康の保護に関する項目													生活環境の保全に関する項目							
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13		14	15	16	17	18	19	20
		カドミウム	全シアン	鉛	六価クロム	砒素	総水銀	トリクロロエチレン	1,1-ジクロロエチレン	シス-1,2-ジクロロエチレン	セレン	ほう素	フッ素	硝酸性窒素	アンモニア態窒素	水素イオン濃度	生物化学的酸素要求量	化学的酸素要求量	浮遊物質量	溶存酸素量	大腸菌群数	全燐
	Cd	CN	Pb	6-Cr	As	Hg			Se	B	F			pH	BOD	COD	SS	DO		T-P		
	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	-	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	個/cm ³	mg/L	
放流水	最小	<0.001	<0.01	<0.003	<0.0074	0.0023	<0.00015	<0.01	<0.01	<0.01	<0.002	0.09	7.2	1.3	9.47	7.0	1.0	17.9	2.0	6.1	2,500	12.6
	最大	<0.001	0.01	<0.003	<0.0074	0.0142	<0.00015	<0.01	<0.01	<0.01	<0.002	0.13	9.8	17	16.3	7.3	6.1	24.0	5.0	8.2	25,000	17.8
	平均値	<0.001	0.01	<0.003	<0.0074	0.0067	<0.00015	<0.01	<0.01	<0.01	<0.002	0.11	8.2	9.3	12.5	7.2	3.0	22.1	3.7	7.1	11,125	15.1
排水基準 (台湾)	0.02	1	0.5	0.35	0.35	0.005	-	-	-	0.35	5	15	50	30	6-9	25	80	25	-	-	-	
排水基準 (日本)	0.03	1	0.1	0.5	0.1	0.005	0.1	1	0.4	0.1	10	8	100 (アンモニア、亜硝酸、硝酸化合物)		5.8-8.6	20 ※1	20 ※1	70 ※1	-	3,000	16	

※1 熊本北部浄化センターに適用される基準

新竹サイエンスパーク周辺の環境状況

下水処理場放流水 調査結果

地点名	項目	生活環境の保全に関する項目							要監視項目			台湾基準項目					
		21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
		n-ヘキサン抽出物質 (油分等)	フェノール類	銅	亜鉛	溶解性鉄	溶解性マンガン	クロム	ニッケル	モリブデン	アンチモン	インジウム	ガリウム	コバルト	銀	スズ	総毒性有機物 ※2
		n-he		Cu	Zn	D-Fe	D-Mn	T-Cr	Ni	Mo	Sb	In	Ga	Co	Ag	Sn	
		mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L
放流水	最小	<1.0	<0.01	<0.02	0.041	0.060	0.020	<0.004	<0.020	<0.02	<0.017	<0.005	<0.004	<0.01	<0.003	<0.017	<0.19
	最大	<1.0	<0.01	<0.02	0.072	0.109	0.037	<0.004	0.034	<0.02	<0.017	<0.005	<0.004	<0.01	<0.003	<0.017	<0.19
	平均値	<1.0	<0.01	<0.02	0.052	0.086	0.028	<0.004	0.025	<0.02	<0.017	<0.005	<0.004	<0.01	<0.003	<0.017	<0.19
排水基準 (台湾)		10	1	1.5	3.5	10	10	1.5	0.7	0.6	1	0.1	0.1	1	0.5	2	1.37
排水基準 (日本)	鉱油類 5 動植物油30		5	3	5	10	10	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※2 メチルベンゼン等30物質の有害化学物質

新竹サイエンスパーク周辺の環境状況

② 地下水(環境基準適用)の状況

- モニタリング結果は、一部(鉄(Fe)^{※1}及びマンガン(Mn)^{※2})を除き、台湾の環境基準を満たしている。なお、地元行政機関(新竹サイエンスパーク管理局及び新竹県政府環境保護局)によると、鉄(Fe)及びマンガン(Mn)はサイエンスパークが原因ではないと考えられるとのことであった。
- ほとんどの調査項目が日本の環境基準内であり、重金属の多くが検出限界未満であった。
- 一部の項目(鉛(Pb)、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、マンガン(Mn))は、日本の環境基準等を満たしていないが、サイエンスパークに起因するものではないことを確認した。
 - ・ 鉛(Pb): 平均値 2/40地点で超過 最大0.023mg/L (日本の環境基準: 0.01mg/L)
 - ・ 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素: 平均値 1/40地点で超過 11mg/L (日本の環境基準: 10mg/L)
 - ・ マンガン(Mn): 平均値 17/40地点で超過 0.56~2.61mg/L (日本の指針値: 0.2mg/L)

地元行政機関によると、マンガン(Mn)及び鉄(Fe)いずれも地質の影響と考えられるとのことであった。また、鉛(Pb)、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素は、周辺工場稼働前から同レベルで確認されていることから、工場以外の要因によるとのことであった。

※1 「鉄(Fe)」(生活環境の保全に関する項目)は、地殻中で4番目に多量に存在する元素で、主として岩石や土壌に由来する。なお、長期間過量に摂取した場合は、皮膚色素沈着等が起きるとされている。

※2 「マンガン(Mn)」(要監視項目)は、自然水中では通常、鉄と共存する。主に地質に由来するが、まれに工場排水の混入由来もある。なお、人にとって必須元素であるが、長期間過量に摂取した場合は、倦怠感や頭痛等が起きるとされている。

※3 「鉛(Pb)」(人の健康の保護に関する項目)は、多くの鉱石中に存在し、種々の工業製品中に添加物、不純物として含まれている。なお、長期間過量に摂取した場合は、貧血、消化管の障害等が起きるとされている。

※4 「硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素」(人の健康の保護に関する項目)は、主に生活排水の不適正な処理、家畜排せつ物の過剰な土壌還元、窒素肥料の溶脱に由来する。影響としては、乳幼児の血液中のヘモグロビンと結合し、酸素欠乏症が起きるとされている。

新竹サイエンスパーク周辺の環境状況

地下水 調査結果

青色マーキング箇所が日本の環境基準等を満たしていない項目

地点名	項目	人の健康の保護に関する項目															
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		12	13	14	
		カドミウム	全シアン	鉛	六価クロム	ヒ素	総水銀	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	四塩化炭素	1,1-ジクロロエチレン	1,2-ジクロロエチレン		1,1,2-トリクロロエタン	フッ素	硝酸性窒素	
		Cd	CN	Pb	6-Cr	As	Hg					シス	トランス		F		
		mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L
園区内 40地点	最小	<0.01	<0.01	<0.01	<0.0074	<0.002	<0.00015	<0.001	<0.00045	<0.00044	<0.001	<0.001	<0.001	<0.00042	<0.05	<0.05	
	最大	<0.01	0.01	0.023	<0.0074	0.0538	<0.00015	<0.001	0.0015	<0.00044	<0.001	<0.001	<0.001	<0.00042	0.65	11	
	平均値	<0.01	0.01	<0.01	<0.0074	0.0056	<0.00015	<0.001	0.0005	<0.00044	<0.001	<0.001	<0.001	<0.00042	0.11	1.5	
環境基準(台湾)		0.025	0.25	0.05	-	0.25	0.01	0.025	0.025	0.025	0.035	0.35	0.5	0.025	4	50	
環境基準等(日本)		0.003	ND (<0.1)	0.01	0.02	0.01	0.0005	0.01	0.01	0.002	0.1	0.04		0.006	0.8	10 (硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素)	

新竹サイエンスパーク周辺の環境状況

地下水 調査結果

青色マーキング箇所が日本の環境基準等を満たしていない項目

朱書き箇所が台湾の環境基準等を満たしていない項目

地点名	項目	生活環境の保全に関する項目								要監視項目		台湾基準項目
		15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
		水素イオン濃度	化学的酸素要求量	大腸菌群数	n-ヘキサン抽出物質(油分等)	銅	亜鉛	鉄	クロム	ニッケル	マンガン	インジウム
		pH	COD		n-he	Cu	Zn	Fe	T-Cr	Ni	Mn	In
園区内40地点	最小	5.2	2.8	10	<1	<0.02	0.020	0.076	<0.004	<0.02	<0.02	<0.005
	最大	8.2	274	180,000	<1	0.023	0.137	32.1	0.084	0.034	2.61	<0.005
	平均値	6.1	13.7	2,098	<1	<0.02	0.041	5.85	0.010	<0.02	0.583	<0.005
環境基準(台湾)		-	-	-	-	5	25	1.5	0.25	0.5	0.25	0.35
環境基準等(日本)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.2	-

新竹サイエンスパーク周辺の環境状況

③ 河川水(環境基準適用)の状況

○ モニタリング結果は、一部(生物化学的酸素要求量(BOD)^{※1}、溶存酸素量(DO)^{※2}及び大腸菌群数^{※3})を除き、台湾の環境基準を満たしている。なお、地元行政機関(新竹サイエンスパーク管理局及び新竹県政府環境保護局)によると、生物化学的酸素要求量(BOD)、溶存酸素量(DO)及び大腸菌群数はサイエンスパークが主な原因ではないと考えられるとのことであった。

○ ほとんどの調査項目が日本の環境基準内で、重金属の多くが検出限界未満であった。

○ 一部の項目(フッ素(F))は、日本の環境基準等を満たしていないことを確認した。

・ フッ素(F) : 放流水合流点 最小値7.2mg/L、平均値7.6mg/L、最大値8.2mg/L

放流水合流点下流 最小値6.2mg/L、平均値6.8mg/L、最大値7.4mg/L

(日本の環境基準:0.8mg/L)

フッ素(F)は、台湾の排水基準(15mg/L)が日本(8mg/L)より高いことが影響していると考えられるが、本県に立地する企業については、日本の基準を遵守することになる。

また、生物化学的酸素要求量(BOD)、溶存酸素量(DO)及び大腸菌群数はいずれも放流口上流と放流口下流において大きな違いはなかった。

※1 「生物化学的酸素要求量(BOD)」(生活環境の保全に関する項目)は、河川の汚れの度合を示す数値であり、数値が高いほど水中の汚染物質の量も多いことを示している。

※2 「大腸菌群数」(生活環境の保全に関する項目)は、人、家畜、野生生物によるふん便汚染の指標。

※3 「溶存酸素量(DO)」(生活環境の保全に関する項目)は、水に溶けている酸素のことで、値が高いほど水質は良好とされる。

新竹サイエンスパーク周辺の環境状況

河川水 調査結果

青色マーキング箇所が日本の環境基準等を満たしていない項目

朱書き箇所が台湾の環境基準等を満たしていない項目

地点名	項目	人の健康の保護に関する項目												生活環境の保全に関する項目		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
		カドミウム	全シアン	鉛	六価クロム	ヒ素	総水銀	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	1,1-ジクロロエチレン	シス-1,2-ジクロロエチレン	フッ素	硝酸性窒素	水素イオン濃度	生物化学的酸素要求量	化学的酸素要求量
		Cd	CN	Pb	6-Cr	As	Hg					F		pH	BOD	COD
		mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	-	mg/L	mg/L
放流水合流点上流	最小	<0.001	<0.01	<0.003	<0.02	<0.0020	<0.00015	<0.01		<0.01	<0.01	0.13	2.76	7.4	1.5	9.0
	最大	<0.001	<0.01	<0.003	<0.02	<0.0020	<0.00015	<0.01		<0.01	<0.01	0.17	3.84	8.3	4.3	28.4
	平均値	<0.001	<0.01	<0.003	<0.02	<0.0020	<0.00015	<0.01		<0.01	<0.01	0.15	3.30	7.7	3.0 ^{※3}	16.1
放流水合流点	最小	<0.001	<0.01	<0.003	<0.02	<0.0020	<0.00015	<0.01		<0.01	<0.01	7.2	1.34	6.9	2.0	19.2
	最大	<0.001	0.01	<0.003	<0.02	0.0141	<0.00015	<0.01		<0.01	<0.01	8.2	12.80	7.4	5.2	37.0
	平均値	<0.001	0.01	<0.003	<0.02	0.0064	<0.00015	<0.01		<0.01	<0.01	7.6	7.21	7.1	5.0 ^{※3}	25.0
放流水合流点下流	最小	<0.001	<0.01	<0.003	<0.02	0.0023	<0.00015	<0.01		<0.01	<0.01	6.2	1.85	7.0	2.1	18.9
	最大	<0.001	0.01	<0.003	<0.02	0.0224	<0.00015	<0.01		<0.01	<0.01	7.4	11.90	7.5	5.3	23.8
	平均値	<0.001	0.01	<0.003	<0.02	0.0083	<0.00015	<0.01		<0.01	<0.01	6.8	7.25	7.2	3.4 ^{※3}	21.8
環境基準(台湾)	0.005	0.05	0.01	0.05	0.05	0.001	0.01	-	-	-	-	-	6.5-9.0 ※1	4 ※1	-	
環境基準等(日本)	0.003	ND (0.1)	0.01	0.02	0.01	0.0005	0.01	0.01	0.1	0.04	0.8	10	6.5-8.5 ※2	5 ※2	-	

※1 坪井川中流に相当する水域に適用される基準

※2 坪井川中流に適用される基準

※3 河川のBODは年間75%値で評価しているため、75%値を記載

新竹サイエンスパーク周辺の環境状況

河川水 調査結果

青色マーキング箇所が日本の環境基準等を満たしていない項目

朱書き箇所が台湾の環境基準等を満たしていない項目

地点名	項目	生活環境の保全に関する項目										要監視項目			台湾基準項目	
		16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
		浮遊物 質量	溶存 酸素量	大腸菌 群数	総磷	n- ヘキサン 抽出 物質 (油分等)	フェ ノール 類	銅	亜鉛	鉄	クロム	ニッ ケル	モリブ デン	全 マン ガン	インジ ウム	ガリ ウム
		SS	DO	CFU/ 100mL	T-P	n-he	Cu	Zn	Fe	T-Cr	Ni	Mo	Mn	In	Ga	
		mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	
放流水 合流点 上流	最小	2.6	4.2	33,000	0.49	<1.0	<0.01	<0.02	<0.020	0.162	<0.004	<0.020	<0.02	0.022	<0.005	<0.004
	最大	9.0	7.2	140,000	0.78	<1.0	<0.01	<0.02	0.033	0.418	<0.004	<0.020	<0.02	0.037	<0.005	<0.004
	平均値	5.5	6.0	79,500	0.65	<1.0	<0.01	<0.02	0.024	0.286	<0.004	<0.020	<0.02	0.030	<0.005	<0.004
放流水 合流点	最小	2.7	5.3	2,800	12.0	<1.0	<0.01	<0.02	0.025	0.071	<0.004	<0.020	<0.02	0.020	<0.005	<0.004
	最大	6.5	7.0	35,000	17.2	<1.0	<0.01	<0.02	0.038	0.111	<0.004	0.030	<0.02	0.034	<0.005	<0.004
	平均値	4.9	6.3	13,325	14.5	<1.0	<0.01	<0.02	0.033	0.086	<0.004	<0.020	<0.02	0.027	<0.005	<0.004
放流水 合流点 下流	最小	4.4	5.3	11,000	11.8	<1.0	<0.01	<0.02	0.024	0.092	<0.004	<0.020	<0.02	<0.020	<0.005	<0.004
	最大	9.8	7.2	40,000	14.5	<1.0	<0.01	<0.02	0.045	0.442	<0.004	0.026	<0.02	0.054	<0.005	<0.004
	平均値	7.2	6.5	22,000	13.4	<1.0	<0.01	<0.02	0.035	0.224	<0.004	0.022	<0.02	0.036	<0.005	<0.004
環境基準(台湾)		40 ※1	4.5以上 ※1	10,000 ※1	-	-	0.005	0.03	0.5	-	-	0.1	-	0.05	-	-
環境基準等(日本)		50 ※2	5 ※2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.07	0.2	-	-

※1 坪井川中流に相当する水域に適用される基準

※2 坪井川中流に適用される基準

新竹サイエンスパーク周辺の環境状況

2 大気(環境基準適用)の状況

- モニタリング結果は、台湾の環境基準を満たしている。
- 多くの調査項目が、日本の環境基準内であった。
- 一部の項目(微小粒子状物質(PM2.5)※¹、光化学オキシダント(O3)※²は、日本の環境基準等を満たしていないが、サイエンスパークに起因するものではないことを確認した。
 - ・ 微小粒子状物質(PM2.5): 長期的評価(年平均値)16~17(日本の環境基準15 $\mu\text{g}/\text{m}^3$)
 - ・ 光化学オキシダント(O3): 最大値0.061~0.072ppm(日本の環境基準0.06ppm)

地元行政機関(新竹サイエンスパーク管理局及び新竹県政府環境保護局)によると、微小粒子状物質(PM2.5)、光化学オキシダント(O3)のいずれも大陸側からの汚染物質の流入が影響していると考えられるとのことであった。

※1 「微小粒子状物質(PM2.5)」は、大気中に浮遊する非常に小さな粒子のこと。

※2 「光化学オキシダント(O3)」は、オゾンなどの総称。

新竹サイエンスパーク周辺の環境状況

大気 調査結果

青色マーキング箇所が日本の環境基準等を満たしていない項目

地点名	項目	浮遊粒子状物質 (PM10)	微小粒子状物質 (PM2.5)	二酸化硫黄 (SO2)		二酸化窒素 (NO2)		一酸化炭素 (CO)		光化学オキシダント (O3)	
		($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	(ppm)		(ppm)		(ppm)		(ppm)	
		日平均値	24時間値	最大時間平均値	日平均値	最大時間平均値	日平均値	最大時間平均値	8時間平均値	最大時間平均値	8時間平均値
パーク内1 (污水廠)	最小	7	5	0.001	0.001	0.022	0.006	0.35	0.19	0.029	0.039
	最大	38	27	0.002	0.001	0.038	0.021	1.40	0.71	0.057	0.067
	平均値	21	14	0.002	0.001	0.029	0.014	0.77	0.49	0.043	0.052
パーク内2 (實驗中學)	最小	10	7	0.000	0.000	0.010	0.007	0.48	0.38	0.038	0.033
	最大	33	28	0.002	0.002	0.029	0.019	1.61	0.84	0.062	0.041
	平均値	21	14	0.002	0.001	0.018	0.012	0.78	0.53	0.048	0.037
パーク内3 (三期安遷戸)	最小	4	4	0.001	0.000	0.012	0.007	0.24	0.17	0.037	0.029
	最大	38	28	0.002	0.001	0.031	0.015	4.64	1.07	0.061	0.038
	平均値	19	13	0.001	0.001	0.020	0.011	1.50	0.50	0.048	0.033
パーク内4 (台灣杜邦)	最小	11	5	0.001	0.000	0.008	0.005	0.22	0.19	0.033	0.025
	最大	29	20	0.002	0.002	0.021	0.013	0.60	0.56	0.069	0.052
	平均値	20	13	0.002	0.002	0.015	0.009	0.39	0.34	0.051	0.040
環境基準(台湾)		100	35	0.075	-	-	-	35	9	0.12	0.06
環境基準等(日本)		100	短期的評価35 長期的評価15 ※	-	0.04	-	0.06	-	10	0.06	-

※ 短期的評価は1日平均値で評価、長期的評価は年平均値で評価するもの。

新竹サイエンスパーク周辺の環境状況

大気 調査結果

青色マーキング箇所が日本の環境基準等を満たしていない項目

地点名	項目	浮遊粒子状物質 (PM10)	微小粒子状物質 (PM2.5)	二酸化硫黄 (SO2)		二酸化窒素 (NO2)		一酸化炭素 (CO)		光化学オキシダント (O3)	
		($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	(ppm)		(ppm)		(ppm)		(ppm)	
		日平均値	24時間値	最大時間平均値	日平均値	最大時間平均値	日平均値	最大時間平均値	8時間平均値	最大時間平均値	8時間平均値
パーク内5 (雙園二街129巷10號)	最小	14	7	0.001	0.001	0.013	0.007	0.39	0.37	0.044	0.034
	最大	46	30	0.003	0.002	0.043	0.028	0.85	0.64	0.063	0.050
	平均値	29	17	0.002	0.002	0.028	0.016	0.65	0.49	0.053	0.043
パーク内6 (新安路與園區三路)	最小	14	7	0.001	0.001	0.013	0.005	0.38	0.18	0.044	0.028
	最大	39	26	0.001	0.001	0.049	0.022	2.70	1.51	0.071	0.052
	平均値	27	16	0.001	0.001	0.030	0.014	1.14	0.67	0.053	0.041
パーク内7 (三路基地場址南邊周界)	最小	10	7	0.001	0.000	0.015	0.006	0.41	0.37	0.029	0.025
	最大	51	17	0.002	0.002	0.029	0.018	1.02	0.53	0.056	0.041
	平均値	25	11	0.002	0.001	0.021	0.012	0.71	0.44	0.043	0.032
パーク内8 (寶山用地場址南邊周界)	最小	16	7	0.001	0.000	0.006	0.003	0.19	0.11	0.026	0.018
	最大	51	24	0.002	0.002	0.036	0.019	0.84	0.65	0.061	0.039
	平均値	34	15	0.002	0.001	0.021	0.011	0.48	0.35	0.040	0.028
環境基準(台湾)		100	35	0.075	-	-	-	35	9	0.12	0.06
環境基準等(日本)		100	短期的評価35 長期的評価15 ※	-	0.04	-	0.06	-	10	0.06	-

※ 短期的評価は1日平均値で評価、長期的評価は年平均値で評価するもの。

新竹サイエンスパーク周辺の環境状況

大気 調査結果

地点名	項目	ベンゼン	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	ジクロロメタン	アクリロニトリル	クロロホルム	1,2ジクロロエタン	1,3ブタジエン
		(ppm)	(mg/m ³)						
パーク内1 (污水廠)	最小	ND	<0.0013	<0.0017	0.0032	<0.0006	<0.0013	<0.0010	<0.0005
	最大	0.0007	<0.0013	<0.0017	0.0057	<0.0006	0.0017	<0.0010	<0.0005
	平均値	-	<0.0013	<0.0017	0.0048	<0.0006	0.0009	<0.0010	<0.0005
パーク内2 (實驗中學)	最小	<0.0003	<0.0013	<0.0017	0.0020	<0.0006	<0.0013	<0.0010	<0.0005
	最大	0.0008	<0.0013	<0.0017	0.0042	<0.0006	<0.0013	<0.0010	<0.0005
	平均値	0.0003	<0.0013	<0.0017	0.0032	<0.0006	<0.0013	<0.0010	<0.0005
パーク内3 (三期安遷戸)	最小	ND	<0.0013	<0.0017	0.0014	<0.0006	<0.0013	<0.0010	<0.0005
	最大	0.0006	<0.0013	<0.0017	0.0181	<0.0006	<0.0013	<0.0010	<0.0005
	平均値	-	<0.0013	<0.0017	0.0077	<0.0006	<0.0013	<0.0010	<0.0005
パーク内4 (台灣杜邦)	最小	ND	<0.0013	<0.0017	0.0023	<0.0006	<0.0013	<0.0010	<0.0005
	最大	0.0003	<0.0013	<0.0017	0.0046	<0.0006	<0.0013	<0.0010	<0.0005
	平均値	-	<0.0013	<0.0017	0.0031	<0.0006	<0.0013	<0.0010	<0.0005
環境基準(台湾)		-	-	-	-	-	-	-	-
環境基準等(日本)		0.0009	0.13	0.2	0.15	0.002	0.018	0.0016	0.0025

新竹サイエンスパーク周辺の環境状況

大気 調査結果

地点名	項目	ベンゼン	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	ジクロロメタン	アクリロニトリル	クロロホルム	1,2ジクロロエタン	1,3ブタジエン
		(ppm)	(mg/m ³)						
パーク内5 (雙園二街 129巷10號)	最小	ND	<0.0013	<0.0017	0.0017	<0.0006	<0.0013	<0.0010	<0.0005
	最大	0.0006	<0.0013	<0.0017	0.0758	<0.0006	0.0025	<0.0010	<0.0005
	平均値	-	<0.0013	<0.0017	0.0211	<0.0006	0.0011	<0.0010	<0.0005
パーク内6 (新安路與園 區三路)	最小	ND	<0.0013	<0.0017	0.0027	<0.0006	<0.0013	<0.0010	<0.0005
	最大	0.0009	<0.0013	<0.0017	0.0090	<0.0006	<0.0013	<0.0010	<0.0005
	平均値	-	<0.0013	<0.0017	0.0045	<0.0006	<0.0013	<0.0010	<0.0005
パーク内7 (三路基地場 址南邊周界)	最小	ND	<0.0013	<0.0017	0.0032	<0.0006	<0.0013	<0.0010	<0.0005
	最大	0.0005	<0.0013	<0.0017	0.0051	<0.0006	<0.0013	<0.0010	<0.0005
	平均値	-	<0.0013	<0.0017	0.0040	<0.0006	<0.0013	<0.0010	<0.0005
パーク内8 (寶山用地場 址南邊周界)	最小	ND	<0.0013	<0.0017	0.0019	<0.0006	<0.0013	<0.0010	<0.0005
	最大	0.0005	<0.0013	<0.0017	0.0040	<0.0006	<0.0013	<0.0010	<0.0005
	平均値	-	<0.0013	<0.0017	0.0034	<0.0006	<0.0013	<0.0010	<0.0005
環境基準(台湾)		-	-	-	-	-	-	-	-
環境基準等(日本)		0.0009	0.13	0.2	0.15	0.002	0.018	0.0016	0.0025